

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	美祢市於福町下3267-1		
電話番号	0837-56-5555	事業所番号	3571300148
法人名	社会福祉法人 同朋福祉会		

訪問調査日	平成 22 年 2 月 4 日	評価確定日	平成 22 年 5 月 20 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 22 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人 非常勤 1 人 (常勤換算 7.6 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	450 円	おやつ	250 円
その他の費用	月額	26,000 円		
	内訳	光熱水費 16,000円	日用品営繕費	10,000円

### (4) 利用者の概要 (2月4日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名	
	要介護 1	2	要介護 4	1
	要介護 2	3	要介護 5	
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢	平均 86.1 歳	最低 79 歳	最高 95 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 とも園クリニック、美祢市立病院、美祢市立美東病院 歯科 津村歯科医院
-------------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

利用者一人ひとりの活躍できる場面づくりや、楽しみごとと気晴らしの支援などで、理念である「明るく、楽しく、のんびりとその人らしさを大切に」を実践されています。また、地域行事や法人の行事で地域の人と交流されたり、近所の家のリフォームを見学し、お茶をご馳走になったり、散歩時に積極的に話かけするなど、隣近所の人と付き合い、地域の中で馴染みの暮らしができるよう支援されています。職員の研修を計画を立てて実施され、職員が共通の理解をしてサービスの提供が行えるよう資質の向上に取り組まれています。

### (特徴的な取組等)

ヒヤリはっとや事故報告書の記録を6ヶ月毎にまとめて検討され、介護計画に反映させて、一人ひとりに応じた事故防止に取り組まれています。ひな祭りや敬老会には家族との食事会があり、半数の家族が参加されています。介護計画作成前には、利用者の担当職員と家族が居室でよく話し合われたり、電話などで意向を聞かれて介護計画を作成されています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果を職員会議で話し合い、応急手当等の定期的な訓練は、法人の看護師を招いて実施され、災害時の地域住民の協力を運営推進会議に図って検討されるなど改善に取り組まれています。

### (今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を説明され、職員が理解した上で実施されています。会議を2回行い、項目について意見交換しながら自己評価書を作成しておられます。自己評価する事で課題に気づき、日々のケアの振り返りや見直しとされています。

### (運営推進会議の取組状況)

民生委員、前民生委員、消防署員、地域包括支援センター職員、市高齢障害課職員、家族、施設長、管理者等で2ヶ月に1回開催されています。利用者の状況、行事報告、外部評価結果報告、満足度調査結果報告、新型インフルエンザについてなどで、意見交換をされ、出された意見を運営に活かしておられます。

### (家族との連携状況)

毎月発行の事業所だよりに、利用者一人ひとりの写真、生活の様子や健康状態のコメント、行事報告、予定、職員の挨拶などを掲載し、金銭出納帳の写しやレシートと一緒に送付されています。年2回の家族の集い(ひなまつり、敬老会)の食事会や、個々の面会時に伝えたり、電話でも報告するなどされ、家族からの意見や要望も聞いておられます。

### (地域との連携状況)

地域行事(夏祭り、敬老会、中学校の運動会)や法人の行事(文化祭、夏祭り、ケアハウスの運動会)などに参加して地域の人々と交流されています。併設施設を訪問しているボランティアの行事に参加したり、お茶の接待、散歩での声かけ、野菜や花の差し入れがあるなど、地域との関係づくりに努めておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「明るく、楽しく、のんびりと、その人らしくを大切にする」「地域の中で、馴染みの暮らしが継続できるよう支援する」という事業所独自の理念をつくり、運営者、施設長、全職員で再確認している。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、朝礼時に唱和している。日々のミーティングや職員会議などで共有を図り、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域行事(夏祭り、敬老会、中学校の運動会)や法人の行事(文化祭、夏祭り、ケアハウスの運動会)などに参加して地域の人と交流している。併設施設を訪問しているボランティアの行事に参加したり、お茶の接待、散歩での声かけ、野菜や花の差し入れもあるなど、地域との関係づくりに努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義を説明し、理解した上で実施している。会議を2回行い、項目について意見交換しながら自己評価書を作成し、自己評価する事で課題に気づき、日々のケアの振り返りや見直しをしている。外部評価結果についても話し合い、改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>民生委員、前民生委員、消防署員、地域包括支援センター職員、市高齢障害課職員、家族、施設長、管理者等で2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、行事報告、外部評価結果報告、満足度調査結果報告、新型インフルエンザ対策などで意見交換をし、出た意見をサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市の担当課や地域包括支援センターなどと連絡を取り合い、相談をしたり、助言を受けたり交流している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発行の事業所だよりに、利用者一人ひとりの写真、生活の様子や健康状態のコメント、行事報告、予定、職員の挨拶などを掲載し、金銭出納帳の写しやレシートを一緒に送付している。年2回の家族の集い(ひなまつり、敬老会)の食事会や、個々の面会時に伝えたり、電話でも報告している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や家族の集い、運営推進会議などで家族からの意見や要望を聞いている。相談や苦情を受け付ける窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを定めている。ホールに苦情受け付け箱を設置している。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	8名の職員を確保し、利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応できるよう勤務の調整に努めている。職員の急な休みや緊急時には、公休出勤や法人施設からの応援で対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は約1ヶ月間の重複勤務(夜勤は2～3回重複)をして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修計画があり、毎月テーマを決めて内部研修を行なっている。外部研修は勤務経験や段階に応じて参加の機会を勤務の一環として提供している。年2回の法人内研修(まなびセミナー)にも参加し、外部研修も合わせて復命書を作成し、職員会議の後に復命研修を行ない、欠席者には回覧して、全職員が学べるようにしている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・小野田ブロック協議会に加入し、同業者との交流を図っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に自宅(施設や病院)を訪問して面接し、本人や家族と話し合っている。事業所に見学に来てもらい、他の利用者や職員と一緒にお茶を飲んでもらったり、ゲームをするなどして、場の雰囲気を感してもらえるようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は利用者と日々の生活を共にしながら、「人生の先輩」として接し、梅干の漬け方、お茶の作法、刺し子などを教わったり、戦争体験の話の聞いたりして、本人から学んだり、支え合う関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式のシートの活用や、利用者の日々の会話や行動などを「ケースダイアリー」に記録し、職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めて、介護計画に反映している。把握が困難な場合は、家族と相談するなど本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者個々の担当職員が事前に家族と話し合っって介護計画の素案を作成してケアカンファレンスに提出している。月1回ケアカンファレンスを開催し、本人や家族の思いや希望・意見を参考にし、職員全体で意見交換し、それぞれの意見を反映した介護計画を計画作成担当者が作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>月1回のケア会議で利用者の状態を話し合っって、状態に変化が生じた場合は、家族等と話し合い、現状に合わせた介護計画を作成している。6ヶ月毎に定期的な見直しをしている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎と付き添い、選挙時の付き添い、自宅訪問の支援など、本人や家族の状況や要望に応じて支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に今までのかかりつけ医や希望する医療機関を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。情報提供を行ない、かかりつけ医と事業所の関係づくりに努めている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応については、入居時に本人や家族に説明している。状況に応じて医師や看護師、家族等と話し合い、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、勉強会やミーティング等で言葉かけや対応について話し合い、利用者の自尊心を傷つせず、プライバシーを損ねないように配慮している。記録等の個人情報の取り扱いにも注意している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは、概ね決まっているが、起床、就寝、食事時間など、一人ひとりの思いや状態、ペースを大切に、その人らしい生活ができるよう、希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼食の副食は法人からの配食であるが、それ以外の食事は事業所で作っている。利用者の好みを聞いての献立や、畑で採れた野菜も使って調理している。利用者は、野菜の下ごしらえ、盛り付け、後片づけなどをし、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は14時から16時まで週5回実施しているが、朝風呂や毎日の入浴にも対応している。入浴剤やゆず湯、みかん湯などでリラックスできるように工夫している。入浴したくない人には声かけなどで工夫したり、利用者の体調や状態に合わせてシャワー浴や足浴、清拭などで対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生け花、ぬり絵、貼り絵、刺し子、書道、法話の会、いきいき音楽、3B体操、小物づくり、花見、ドライブ、畑づくり、調理の下ごしらえ、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗いなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをし、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩に出かけ、みかん狩りや公園には弁当持参で行き、季節ごとの花見、ドライブ中の外食など、その時々々の希望にそって外出できるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束や虐待防止についての勉強会の実施や、朝礼時やミーティング等で話し合い、職員全員で理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関には鍵をかけていない。職員は鍵をかけないケアの重要性を認識している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書、事故報告書に記入し、6ヶ月に1回まとめて職員会議等で検討し、介護計画に反映させて、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。事故防止についての研修を実施している。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時に備え、応急手当や初期対応の勉強会や訓練をしている。緊急時には、法人の看護師の協力が得られる。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、法人施設と合同で、消防避難訓練を実施している。防災訓練には地域の人(2名)も参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者一人ひとりの薬の情報をファイルし、職員は薬の目的や副作用、用法、用量について理解している。薬は手渡しし服用を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや介助等で、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシやコップ、義歯などの清掃、消毒、保管についても支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を記録している。栄養バランスやカロリーは法人の管理栄養士が管理している。利用者一人ひとりの状態に合わせて粥や刻みなどにし、青魚が食べられない人には、別の物にするなど対応している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、手洗い、うがいの励行、手すりの消毒、出入口の消毒マットなど、予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は高窓があり、広く明るく、花やさげもん飾り、顔写真、利用者の作品(トラの貼り絵・刺し子)が飾られて華やいでいて季節感もある。随所にソファーや椅子が置いてあり、一人ひとりの居場所となっており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は洋室や和室があり、エアコンと防火カーテン、レースカーテンが備え付けてある。どの居室からも外の景色が見渡せ、使い慣れたタンス、ベット、布団、家族の写真、お気に入りの人形などを持ち込んで、居心地よく過ごせるように工夫している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	ひかりの園
所在地	山口県美祢市於福町下3267-1番地
電話番号	0837-56-5555
開設年月日	平成13年12月22日

## 【実施ユニットの概要】 (1月20日現在)

ユニットの名称	ひかりの園			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	8	男性 1名	女性 7名	
	要介護1	2	要介護4	1
	要介護2	3	要介護5	
	要介護3	2	要支援2	
年齢構成	平均 86歳	最低 79歳	最高 95歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	自己評価の意義を説明し、理解し平成21年12月22日、平成22年1月12日意見交換、検討会実施。
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

畑には季節の野菜を植え、収穫の時期が来たら皆で収穫の楽しさを味わい、食卓にも収穫した食材を使った料理を出し、収穫の様子など会話が弾む中、その味覚を楽しんでいる。四季折々の自然事象を感じて頂くために、花見や梅干し作り、ケアハウス利用者や障害者との交換会の七夕、ミニ運動会、みかん狩り、餅つき、雛祭りなどを楽しんでいる。地域の小学校・中学校の運動会出場観戦、自施設で敬老祝賀会を行うと共に地域敬老会にも参加している。趣味や手芸など職員と共に楽しまれ、郵便局の協力を頂き作品展をさせて頂いている。また隣接のケアハウスの行事に参加し交流を図っている。当法人運営の診療所もあり、医療面の対応もすぐ取れるようになっている。



# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義を説明し、理解した上で実施することで、できていてもまだ弱い部分等に気づき、日々のケアの振り返りや見直しを行い、サービスの改善に努めている。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	利用者の状況、サービス内容や行事、外部評価、自己評価の内容や、評価結果の報告をしている。参加者からの意見・助言等を活かしサービスの向上に努めている。	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当課の職員、地域包括支援センター職員とは日頃から連携が取れており、何でも相談できる関係ができてる。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在、権利擁護に関する制度を必要とされる利用者がいない。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	朝礼時や職員会議などで、どんなことが虐待になり、虐待を見過ごしてはいないかを問い、高齢者虐待に関する理解を深め、遵守に向けた取り組みをしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事業所のケアに関する取り組みや、起こり得るリスク、退居時の対応など不安や疑問な事などを聞きながら、不安や疑問を解消できるよう説明している。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の様子より察知するよう努め、その事についてミーティングを行い改善につなげている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時には様子を伝え、毎月発行しているホーム便りは、職員より意見を聞き、利用者の生活・医療状況、行事の報告と予定を載せ、出納簿のコピーを買い物レシートと一緒に送付している。利用者の体調が悪い時は電話連絡をし様子を伝えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要求があった場合は応じる。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	ご家族の来訪時には意見や要望を聞いている。また言いやすい雰囲気作りに努めている。入り口には苦情箱を設置している。苦情相談の窓口、担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きも明確にしている。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議、高齢者福祉サービス会議、観戦会議等で職員の意見や要望を聞き反映させている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者ひとり一人の状態やペース、行事に合わせた柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。病欠、緊急時には、公休出勤や併設の職員の応援で対応している。職員には前もって希望休を聞き勤務表を作成している。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者と職員が馴染みの関係を継続できるよう、職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努力している。新職員の採用時には日勤や夜勤などにおいて重複対応市ながら、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、勤務経験や段階に応じて受けることができるよう配慮し、年2回の法人での研修への参加や報告会、ホーム内の勉強会など職員が学ぶ機会を確保している。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	調理やレクリエーション、手芸や書道など職員個人が持つ資質を十分に発揮してもらい、利用者の豊かな生活につなげている。		
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・小野田ブロック協議会に加入し同業者との交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者や家族の思いに寄り添いながら、日々の様子を伝え、ご本人を支えて行くための協力関係ができています。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	ご本人の思いと家族の思いを受け止め、両者の思いが結びつくように働きかけている。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの馴染みの美容院へ行かれる利用者や、古い知人、自宅近所の友人が訪ねて来られる利用者もおられ、継続的な交流ができるよう努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の心身の状態や気分、感情を注意深く見守り、孤立させないように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年賀状のやりとりや、入院又は他施設へ入所された場合など、様子を見に行き声をかけるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報や、生活歴の把握に努めると共に、日常の関わりの中で、利用者の行動、表情、言動を日誌に残すようにし、ミーティング等で共有し意向の把握に努めている。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者が話された事や、ご家族、知人の面会時にお話を聞いたりして情報の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとり一人をしっかりと見つめ、状態の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者には日頃の関わりの中で思いを聞き、ご家族には面会時などご意見を頂きそれぞれの意見を反映しながら職員全体で意見交換やカンファレンスなどを通して計画を作成している。	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には6ヶ月に1回の見直しだが、月1回のケア会議で利用者全員について確認している。変化があれば、ご家族と相談しながら随時見直し、現状に即した計画を作成している。	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の状態、変化は個々のケースダイアリーに記録し、食事、水分、排泄等についても日誌メモに記録、排便について特に配慮がある利用者については、排便確認表に記録している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	かかりつけ医への通院介助、選挙時の投票への付き添い、故郷訪問支援など、できるだけ、利用者やご家族の要望に添えるような支援を心掛けている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らせるよう、警察や民生委員、消防署などの協力やアドバイスを頂いている。	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアにきて頂けるよう働きかけている。依頼があれば、中学生の体験学習も受け入れている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他事業所の介護支援専門員等との情報交換をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p><b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p><b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p><b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>施設内の勉強会やミーティングの中で、特に言葉づかいや態度に注意するよう話し合っている。個人情報の記録物は細心の注意を払い収納庫で管理している。</p>	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせた声かけや、わかりやすい説明を心がけ、本人ができる限り自分で決めることができるよう支援している。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>手伝い等、本人のできることを見極め、できない事自信をなくすことのないよう配慮し、支援している。</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一日の大まかな流れはあるが、「のんびりとその人らしさを大切に」の理念に添い、ひとり一人のペースに合わせ、起床や食事主体性を尊重しながら支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>自分で化粧をされる方も有る。また同じ服の繰り返しにならないよう支援している。理美容は利用者の行きつけの美容院へ行けるよう支援している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>昼食は配食を利用しているが、朝・夕食はホームで作っている。畑で採れた野菜や頂いた野菜を取り入れるなど工夫している。食事の準備や盛り付け、後片づけなど利用者も職員と一緒に、同じテーブルで会話をしながら食事を楽しんでいる。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>アルコールやコーヒー等希望されれば出せるようにしている。また職員からも「どうですか」と声をかけるようにし、希望を言いやすいようにしている。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄のチェックをすると共に、本人の様子を見てトイレ誘導をしている。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	プランターに季節の花を植えたり、温かい雰囲気になるよう工夫している。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	扇形に居室が配置されており、キッチンや事務所から全てを見守ることができる。ホールにはくつろぐためのソファや季節の花、お雛様や五月人形を飾り季節を感じてもらおう工夫をしている。居間には仏壇もあり、心のよりどころになっている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやベンチを置き、気の合った者同士でくつろげるように工夫している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に、ご家族とよく相談し、使い慣れた家具やベッド、こたつ、冷蔵庫等、馴染みのある物を持ってきて頂くようにしている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気に努め、温湿度計を確認しながら調整している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者の状態に合わせて、手摺りや浴室、トイレ、廊下などの住環境が適しているか見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	状態が変わり、今までできていた事ができなくなった場合、職員全員で話し合い、どうしたら本人が自信を持って生活できるかを探っている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花を植えたり、プランターや畑で野菜を育てるなど工夫している。暖かい日はテラスに出てお茶を飲んだりしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない